

## 「ピロリ感染胃炎」に 除菌治療が保険適応と なりました！



まず、内視鏡検査をうけて、  
「ピロリ感染胃炎の診断がつくと、



除菌治療開始  
除菌用の薬を1週間内服します。



3ヵ月後に、尿素呼気試験で除菌が  
成功したか、確認します。  
ピロリ菌が消失していれば、除菌成  
功となります。



お申し込み・お問合せは

広島原爆障害対策協議会  
健康管理・増進センター

〒730-0052

広島市中区千田町3丁目8-6

TEL(082)243-2664 (精密健診科)

電話受付/月～金曜日(祝祭日を除く)

8:30～16:30まで

## ピロリ菌検査の ご案内



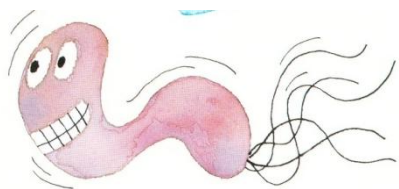
広島原爆障害対策協議会  
健康管理・増進センター

## ピロリ菌(ヘリコバクターピロリ)について

### ピロリ菌ってなあに？

- ピロリ菌は胃の粘膜に生息しているらせんの形をした細菌です
- 一方の端に鞭毛と呼ばれる毛が4～8本付いていて活発に動き、胃粘膜を覆っている粘液の中に潜み込み、粘膜の表面にくっついたり、細胞の間に入り込んで増殖し、胃粘膜に色々な障害を与えます
- 胃には強い酸(胃酸)があるため、昔から細菌はいないと考えられていましたが、20年前にピロリ菌が生息していることが分かりました

現在、日本人の3400万人がピロリ菌に感染していると考えられています。



## ピロリ菌の早期除菌で、胃がんを予防しましょう

- ・ピロリ菌に感染すると、胃の粘膜が次第に壊され、粘膜に炎症が起こります。これが、「ピロリ感染胃炎」です。
- ・ピロリ感染胃炎が長く続くと、胃潰瘍や胃がんになるリスクが高くなり(男性は10人に1人、女性は13人に1人)、胃がん患者さんの約99%がピロリ菌の感染者であることがわかっています。
- ・ピロリ菌の感染の有無を調べ、ピロリ菌の早期除菌で胃潰瘍や胃がんのリスクを下げるすることができます。除菌に成功すれば、胃がんのリスクは約1/3になります。

## ピロリ菌の検査方法

### ①内視鏡を用いた検査

胃粘膜の一部を採取して、ピロリ菌の有無を診断します。培養法による薬剤感受性試験により、除菌薬が効果があるかどうかわかります。

### ②内視鏡を使わない検査

- ・尿素呼気試験
- ・抗体検査 (血液・尿)
- ・便中抗原検査